

公益社団法人可児市シルバー人材センター
令和3年度事業計画

わが国の65歳以上の人口は、昭和25年には総人口の5%に満たなかったが、昭和45年に7%を超え、さらに平成6年には14%を超えました。高齢化率はその後も上昇を続け、令和元年10月1日現在、28.4%に達しています。推計人口で見る日本の将来像では、わが国の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、令和11年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、令和35年には1億人を割って9,924万人になり、令和47年には8,808万人となると推計されています。総人口が減少する中で65歳以上が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和18年に33.3%で3人に1人が65歳以上となります。令和24年以降は65歳以上の人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、令和47年には38.4%に達して、国民の約2.6人に1人が65歳以上となり、75歳以上の人口の割合も、25.5%に達し、約3.9人に1人が75歳以上となる社会が到来すると推測されています。(高齢社会白書より)

シルバー人材センター事業は、人生百年時代到来「まだまだ元気に働きたい。活躍したい。」そうした方々の思いを叶える一つのツールとなれるよう環境を整えていきます。しかしながら、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、シルバー人材センター事業にも少なからず影響をもたらしており、新しい生活様式に対応すべき就業の形態、陣容、さらに感染症についての警戒感等は、今後も続くものと思われまます。これらの変化は今後とも変わることなく日常となることが予想され、シルバー人材センター事業の将来像を見据え事業計画に反映させることが必要と考えまます。当分の間は、感染症対策や新しい生活様式を踏まえた対応を第一として以下のとおり取り組んでいきます。

受託件数	4,500件
契約金額	287,500千円
就業延人員	65,000人日
会員数	950人

I 事業体制

重点目標

新型コロナウイルス感染症は、高齢者に感染すると重症化しやすく危険性が高い。センター会員は、自らの感染予防は勿論、感染させることにも注意を払い、新しい生活様式に対応すべく会員活動を実施してきます。

1. シルバー人材センター事業に関するあらゆる情報をSNS等で確認（共有）出来る体制を整えます。
2. 情報共有を実現するための講習会事業の充実を図り、全会員が利用できる環境を整えます。
3. 女性会員の増強、女性にとって魅力あるシルバー人材センターと成るための、情報収集をはじめ、事業の企画・実行組織を前年度同様に踏襲していきます。

4. 新規事業の拡充と開発を進めます。

II 事業実施計画

1. 情報の共有

コロナ禍の影響で、これまでの日常が常識ではなく様々なシチュエーションに対応を迫られます。まず情報を共有するために、SNS等、活用の充実を整えます。

(1)センターホームページの充実を図り、スマートフォン等により情報を閲覧できるようにします。

(2)会員専用のホームページから事務局とのやり取りや、日常の連絡を可能にします。

(3)多くの会員が利用できるよう講習会の実施を充実していきます。

2. 労働者派遣事業

少子高齢化に伴い労働力の大幅な減少が予測されるなか、女性の社会進出、女性が活躍できる環境を整える必要があるため、育児分野を始め人手不足分野（ホワイトカラー層向け）の派遣事業に力を入れていきます。

3. 介護保険事業

介護保険事業における新型コロナウイルス感染症対策については、高齢者が、高齢者の介護をするなかで最も感染症防止の取組み強化をしなければなりません。したがって、新生活様式（新たな日常）での必要な感染症防止対策を講じます。就業先の情報、消毒液の携帯、手袋、マスク、エプロン等常備、ケアマネージャーとの情報交換を密にします。

4. 福祉有償運送事業

福祉有償運送は、平成25年2月に初期登録をし、3年更新で3回目の更新手続きに入り新たな出発をいたします。この事業も、様々な障がいを持った高年齢者が登録をされており、コロナ禍の対策を十分に整え、運転者の感染症に関する知識を見に付けていただき安心安全を図ってまいります。

5. 農業事業

農業事業も順調に事業継続しておりますが、従来からの飛躍もなく漫然と来ている感があります。今年度は、新しい品種に挑戦して活気のある事業展開を目指します。中々満足はいける収益は難しいですが、独自事業としてある意味、居場所づくりを目的に、仲間と健康的に汗を流し楽しく一日を過ごす場所として機能させていきます。

6. 指定管理事業

老人福祉センター「可児川苑・やすらぎ館」の指定管理者として選定されました。今年度は、岐阜医療科学大学から講師を招き、MC I 軽度認知障害に関する講座を開設し、認知症からの脱却を目指す内容、また、岐阜聖徳学園大学からは、70歳代の機能回復を主目的とした無理のない運動をし、運動機能を保つ講座を開設し老人福祉センターとし

てのサービスを充実させていきます。

Ⅲ 各委員会での立案の実行

1. 事業委員会

- (1) 空き家対策事業では自治会を通じ地権者との繋がりをもちシルバー人材センターができることを積極的に提案していきます。
- (2) リサイクル事業の継続審議を進めます。

2. 女性会員の増強

我が国の人口動態を見ても人口減少があきらかで、人手不足は間違いのない事実です。人手不足に悩みを抱える企業を支える等、地域社会における役割が期待されている今、男性に比べ入会者の少ない女性会員の増強が必須で勧誘を強化して行きます。

Ⅳ 安全就業

シルバー人材センターでは、会員の安全な就業は事業運営の基本であり、就業中の事故や就業場所への途上や帰宅途上の交通事故を含めその防止に努める必要があります。そのために、安全就業に関する講習会及び、安全パトロールと巡回指導の実施。事故原因の特定、分析と情報共有をさらに強化していきます。また、適正就業をして行く中で、シルバー事業の基本的仕組みを会員・その家族、発注者、地域住民等に出来るだけ周知していきます。

Ⅴ ホームページの拡充

コロナ禍での教訓で、必要な情報を密にならなくても収集・発信が出来るよう、会員専用ホームページを整えます。同時に会員が容易に操作できるよう十分な講習会を計画、実施します。

Ⅵ ボランティア活動

シルバー人材センター理念として、「伝えよう地域の文化と伝統、さしのべよう福祉の手と心、」こうした活動も次世代に引き継ぐ重要な柱です。このことを心に留め、各種ボランティア活動を踏襲し実施していきます。

以上で令和3年度事業計画とします。